

\*\*\*\*\* PRタイム：イメディカ株式会社 \*\*\*\*\*



PR中の福田 充さん

はじめましてイメディカ株式会社の福田 充と申します。弊社は総合バス会社のイーグルバス株式会社100%出資のグループ会社です、創立は1997年で事業内容は大きく分けて介護事業と人材事業が有ります。介護事業は川越市今福にデイサービスセンターソレイユを立上げ通所、訪問、居宅介護を行っております。人材事業はバス事業社の視点から自家用自動車管理請負による運転士派遣業務を主にしております、具体的な内容はお客様所有の自家用登録のお車を運行管理させて頂く請負、委託契約と成ります。埼玉県を中心に一都六県で、80箇所のお客様に170名強の運転士がイメディカスタッフとして運行管理対応させております。特色といたしましては、イーグルバスから発足したグループ会社としての同じ目標や理念、バス事業と同様な教育方針を行っております、特に教育には力を入れております。普通車から大型バスまで対応しており、様々なお客様にご利用頂いております、ご契約形態もお客様のニーズに合わせたご契約コースを用意しております。各イメディカスタッフはお客様の現地で採用致します、これは現場の土地勘が有る者でかつ専任運転士にて対応させる為です。採用、教育内容はまず募集時に会社、仕事説明、入社調書、適正、面接、運転テスト等を実施し適任者を選出しますその後本社川越で研修を必ず行います、イーグルバスグループの理念、人を乗せる仕事の心得、事業用免許に準じた運転教育等を行い、合格した者のみ採用しイメディカスタッフとしてお客様のお車を運行させて頂いております。業界に先駆けて、品質ISO9001及び環境ISO14001の認証を取得し、サービススコアリティNO.1をめざして頑張っておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。又役員車送迎も行っておりますので、ご用命下さいませ御願ひ致します。有難う御座いました。

\*\*\*\*\* 新入部員紹介：(株)松本醤油商店・小江戸鏡山酒造(株)・(有)アプリ \*\*\*\*\*



(株)松本醤油商店 前田 誠さん

明治二十二年、川越の商人である「横田屋」から醤油部門が独立し、「松本醤油」が誕生しました。昭和二年に「合名会社 松本醤油商店」として認可されました。醤油造りの歴史は江戸時代から伝承されてきたものです。文政の時代に完成した醤油蔵は川越市の都市景観重要建築物として指定されており、歴史ある醤油作りの象徴です。現在は醤油の付加価値を高め、大量生産品との差別化を図るため、二年間醸造のはつかり醤油を製造し好評を得るに至っています。はつかり醤油は厳選された小麦・丸大豆を使用。良質な原料を天然醸造方式でじっくり熟成・醗酵。日本古来の天然醸造方式により木桶に約二年間自然のまま、熟成醗酵。(はつかり醤油)江戸時代から今に伝わる蔵と木桶は当社の誇りでもあり宝です。機械生産に頼らず、瓶詰めから梱包まで、手作業での生産を心がけております。仕込み時、直接麹に触れることにより、酵母の状態を知ることが醤油造りには欠かせないもの。機械ではできない、職人の技が醤油の味を引き立てます。この4月より、商工会青年部に入部いたしました。微力ではありますが皆様と協力し合い川越の今後の発展のために、頑張りたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。



小江戸鏡山酒造(株) 國分 滋さん

明治8年に新富町(川越市新富町1丁目19番地1)で創業した鏡山酒造株式会社(旧)は、品質第一を基本とした地酒で多くの人々に愛飲されてきました。しかし、惜しまれつつ平成12年9月30日をもって「酒造り」の幕を閉じました。それから6年後、地元小江戸川越・蔵の街からの再興を望む熱い声を背景とし、関係者の御理解と御協力のもと、新たに川越市仲町に「小江戸鏡山酒造株式会社」を設立する運びとなりました。蔵の街・小江戸川越の地酒として、さらに磨きかけた銘酒鏡山の復刻・生産に日々全力で取り組んでおります。酒造は平成19年2月1日に完成をし、同年2月5日より待望の酒造りを始めました。製造には旧鏡山酒造で杜氏が長年にわたり勤めていた山口春見を監修として迎えております。「小江戸鏡山酒造株式会社」は、歴史ある銘酒「鏡山」の伝統を受け継ぐと共に、時代の流れにあった味を追求する「温故知新」の精神で醸していきたいと思っております。



(有)アプリ 小山 弘憲さん

こんにちは。中原町にごじます不動産屋『有限会社アプリ』から参りました小山弘憲と申します。弊社は英語で「感謝」と「正当なる評価」の意味を併せ持つ『appreciation アプリシエーション』という言葉ヒントとして1999年に創業されました。川越の町に根付き、溶け込み、皆様に感謝しつつ、住まいに関するよろず相談所として皆様のお役に立ち、感謝される事で商いを営んで行きたいという目標に向かい社員一同日々精進しております。今回縁あって歴史ある川越商工会議所の青年部に参加させていただける事になりました。私こと小山は弊社にて賃貸部門を担当しております。川越の発展及び魅力の増大は私共の商いに直結しており、その一端にでも参加させていただける事は私にとっても大きなチャレンジであり喜びでございます。古より人と物の動きの多さが町の活気となり、発展のバロメーターになるのではないかと存じます。仕事柄、住まいを基準とした人の動きに関してはご要望やご意見を耳にしやすいポジションにおりますので、少しでも町のお役に立てれば幸せと期待しております。今はまだ道理を知らぬ経験浅き若輩ではございますが、諸先輩方から少しでも多くの知恵と知識を勉強吸収させて頂き、川越の未来のために役立てたいと思う次第でございます。今後とも何卒宜しくお願い致します。

編集後記：こんにちは、情報発信室の島崎です。青年部会報誌「鐘の音」創刊号はいかがでしたか？青年部も設立されてからあっという間に2年が過ぎました。毎回行われている交流会ですが、今まで何か形として残しておけるものが無く、今回より活動報告として会報を発行する運びとなりました。毎号を積み重ねることにより「青年部の歴史」として残していきたいと思っております。情報発信室では、部員の皆様に活用していただけるよう、今後はホームページの作成などに取り組んでまいりたいと思っております。皆様の中で良いアイデアなどがございましたら、お気軽に情報発信室メンバーへお声掛けください。

青年部情報発信室メンバー

☆島崎、高田、笹岡、松村、飯野、小峰、大原  
\*小江戸川越のシンボル「時の鐘」の鐘の音が川越で生活する人にどれだけ癒しのひびきをあたえていることでしょうか！  
青年部の活動を通じて、川越の街が活性化しそこに集う人々に青年部が認知されるようお願いを込めてネーミングしました。



\*\*\*\*\* ごあいさつ：青年部 部長 横田 等 \*\*\*\*\*

一昨年青年部立ち上げから早二年、当初からの一つの目標である会員企業100社を3月にクリアし、4月からの新年度は、会員を東西南北の地区と情報系、制作系のグループに分け、新たな気持ちで青年部活動をさせて頂いております。これも我々の活動を暖かい目で見守って頂いてる各企業のご理解の賜だと感謝しております。今後の交流会は各地区の担当制という形をとり、会員の皆様のニーズに応えつつ、商工会議所という後ろ盾のある青年部ならではの勉強会を作っていく予定です。そして、ここに青年部の会員間情報誌が発刊され、新たなコミュニケーションの武器を手に入れました。メンバーの結束を一層深めるためにも、会員の皆様にはこの「鐘の音」を有効活用頂きたいと思っております。

\*\*\*\*\* 交流会報告「温故創新～若手社員と第3の創業に挑む」 \*\*\*\*\*



講演中の石渡副社長様



ご講演に聞入る皆様



懇親会の様子

平成20年4月25日に東京国際大学第一キャンパスを会場にして青年部交流会を開催いたしました。今回の交流会は、第一に外部講師のセミナーを行うこと、第二に大学と私たち実業界との連携を模索することを目的として開催しました。外部講師はホッピービバレッジ(株)副社長石渡美奈様をお招きし、ご講演いただきました。古い体質を引きずった会社の三代目として、経営刷新を行うべく七転八倒しながらも、一步一步会社が改善していくという内容の講演は、石渡副社長と年齢も立場も近い私たち青年部会員にとって興味深い講演となりました。また、セミナー終了後の懇親会には石渡副社長と共に今年入社の新入社員の方たちがホッピーサーバーを持参して参加し自社製品のPRを行いました。ホッピーの試飲も大変好評で、これを機会にホッピーユーザーが増えることと思います。特筆すべきは、新入社員たちのモラルとモチベーションの高さです。自ら率先して青年部会員の中に入って行き、自社製品をPRする新入社員の姿は爽快でした。会員各位も社員教育の重要性を実感したことでしょう。セミナー、懇親会共に非常に有意義な会になったと思っております。第二の大学との連携については、今回東京国際大学の全面的なご協力を得て、セミナー会場および懇親会会場を無償で使用させていただきました。大学側からも堀口学部長、矢澤準教授、事務局長ならびに生徒の皆さんにセミナー、懇親会にご参加いただきました。学部長には今回の企画を非常に評価いただき「今後、商工会議所との色々な面での連携を深めていきたい」との提案がありました。参加した大学生からも商店会活性化の為のNPO法人設立の提案など積極的な話があり、商工会議所と大学との連携という新しい方策の道が開ける、よい機会になったと思っております。今回は青年部を地区制にして最初の交流会で、日正西部地区担当副部長を中心に西部地区構成員が準備および当日の運営を担当いたしました。準備期間が少なく地区会議が十分に開催できなかったことが反省点ですが、地区会員の連携は深まりました。今後、地区での具体的活動を、地区会議を開催して検討して行きたいと考えております。(記事 西部地区 幹事 八木拓也)



撮影中の石渡副社長様



※番組・ご加入についてのお問い合わせは、川越ケーブルビジョン株式会社 TEL 049(207)7694 までよろしくお願い致します！